



多職種連携におけるファシリテーション実践

社会福祉子ども学科 社会福祉学専攻

小川 孔美 准教授

【研究分野】 高齢者福祉、高齢者虐待防止、専門職連携教育&専門職連携実践
 【キーワード】 地域包括ケアシステム、サロン、成年後見、意思決定支援
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=202oga>



研究概要

日々日常的に行われる退院前カンファレンス、術前術後カンファレンス、サービス担当者会議などの各種**カンファレンスにおけるファシリテーションの重要性**はいうまでもありません。

加えて、2014（平成26）年6月に成立した改正介護保険法において法制化された地域ケア会議では、地域包括支援センターまたは市町村が開催主体となり、地域包括ケアシステムの実現のための有効なツールとして、**個別事例の検討をもとにIPWによるケアマネジメント支援、地域のネットワーク構築**が行われています。「個別課題解決機能」「地域包括支援ネットワーク機能」「地域課題発見機能」「地域づくり・資源開発機能」「政策形成機能」の5つの機能を十分活性化させるためにもファシリテーションはなくてはならないスキルと言えます。多職種連携の場面に応じたスキルや支援の開発を行っています。

講座テーマ紹介

〔一般講座〕

- 「地区サロン運営におけるファシリテーション」
- 「住民、参加者一人ひとりをいかした運営にするためのファシリテーション」
- 「多職種連携による地区サロン運営の仕方」
- 「おひとり様でも大丈夫～ゆるい地域とのつながり方」
- 「事例から理解を深める成年後見制度とACP～あなたのことを伝えるために～」

〔専門職講座〕

- 地域包括支援センター、医療と介護の連携窓口、介護福祉施設、介護支援事業所等との連携による研修会、運営、企画
- 「会議参加者の意見が引き出せないと思ったときのファシリテーション」
- 「時間内にまとめられない！一困ったときのファシリテーション」
- 「苦手な人がいると思ったときのファシリテーション」
- 「ファシリテーションの重要な役割とは」

アピールポイントなど

自治体における「地域包括ケア推進代表者会議 顧問」「地域包括支援センター運営協議会委員」として参加しております。自治体だけでなく民間企業、NPO等との連携も大切にしており、政策や課題解決に関する共同研究のお誘いをお待ちしております。